

技術部部門研修 博物館実習：  
生物標本の作製と分類・整理の研修

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮澤, 俊義, 木野, 瑞萌, 山本, 千尋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00010256">https://doi.org/10.14945/00010256</a>

# 技術部部門研修

## 博物館実習 ～生物標本の作製と分類・整理の研修～

○宮澤俊義<sup>1</sup>、木野瑞萌<sup>2</sup>、山本千尋<sup>2</sup>

技術部（<sup>1</sup>静岡分室、<sup>2</sup>教育研究支援部門）

### 1. 研修内容

博物館（museum）は、歴史・芸術・民俗・産業・自然科学などに関する資料を収集・展示して一般公衆の利用に供し、教養に資する事業を行うとともに資料に関する調査・研究を行う施設の事を言う。今年3月には、静岡キャンパスの近隣に「ふじのくに地球環境史ミュージアム」も開館して、博物館への関心が高まっている。また、静岡キャンパスにはキャンパスミュージアムがあり、その充実が求められている。生命科学を志す者には、生物の基本である標本作成、分類・整理を経験する事は今後の業務や、教育・研究支援にも重要になってくる。本研修は、静岡キャンパスのキャンパスミュージアムで今話題の、生物の透明骨格標本の作製を通じて、標本作製の技術の習得と博物館の役割について学習した。

### 2. 日程

実施日：平成28年9月27日・28日

実施場所：静大キャンパスミュージアム、理学部A棟6階実験室

参加者：9/27 8名・9/28 12名

9/27（火）9：25 集合 キャンパスミュージアム

9：30 開会あいさつ

9:30-10:00 講義「透明骨格標本の作り方」 理学部生物科学科 鈴木雅一教授

10:00-10:30 「北大総合博物館で学んだこと」 木野瑞萌 技術職員

理学部A棟6階学生実験室

10-30-12：30 実習「メダカを使った透明骨格標本作製」 木野瑞萌 技術職員

山本千尋 技術職員

13:30-15:30 実習「メダカを使った透明骨格標本作製」

木野瑞萌 技術職員

山本千尋 技術職員

9/28（水）9：25 集合 キャンパスミュージアム

9:30-10:30 講義「博物館学とキャンパスミュージアム」

理学部地球科学科 塚越哲教授

理学部 A 棟 6 階学生実験室

10:30-12:30 実習「メダカを使った透明骨格標本作製」

木野瑞萌 技術職員  
山本千尋 技術職員  
宮澤俊儀 技術長

昼食

13:00 徒歩で移動（雨天の場合車で移動）

13:30-15:30 ふじのくに地球環境史ミュージアム見学

引率責任者 宮澤俊儀 技術長

理学部 A 棟 6 階学生実験室

15:30-16:30 実習「メダカを使った透明骨格標本作製」

木野瑞萌 技術職員  
山本千尋 技術職員  
宮澤俊儀 技術長

### 3. まとめ

透明骨格標本作製キットでメダカの標本作製をメインに研修を行った。動物学の鈴木雅一教授の「透明骨格標本の作製方法」についての講義と、北大総合博物館で学芸員の資格を取得した、木野瑞萌技術職員の博物館との関わりを講義してもらった。またキャンパスミュージアム館長の塚越哲教授の「博物館学」の講義も聴講した。透明骨格標本作製は、2日の作業を参加者各自で行い、メダカ1匹の透明骨格標本作製してもらった。合間に今春開館した静岡県立の「ふじのくに地球環境史ミュージアム」のバックヤードの見学を、研究員の山田先生の解説をまじえて行った。博物学や博物館の重要性や、社会に向けてのメッセージの必要性を学習してもらった

透明骨格標本は、キャンパスミュージアムでの展示や、キャンパスフェスタでの技術部の展示に使用した。



図1. メダカの透明骨格標本



図2. 標本作製の様子